



掘削が始まったのは戦争末期の1944年9月〜10月頃です。米軍との本土決戦の防衛のために陸軍が使用する目的で掘り始めましたが、武蔵野市の中島飛行機武蔵製作所が空襲を受けたことにより、1945年初頭に同製作所の地下工場の利用に変更されました。イ、ロ、ハ、3つの地区からなり、全て完成していれば総延長約10kmの日本最大級の地下壕です。当初、1200台の工作機

浅川地下壕はいつごろ、どのような目的で作られたのでしょうか。



八王子に残る戦争の記憶 ―浅川地下壕から平和を考える―

戦後80年という歴史の転機に立ち、「平和とは何か」をあらためて考えます。八王子には多くの戦争の爪痕が残されており、その一つが、高尾駅南口にある浅川地下壕です。長年にわたり平和を次世代に伝えていくために活動が続いている「浅川地下壕の保存をすすめる会」の中田均さんにお話を伺いました。

械を入れて戦闘機のエンジンを月300台作る計画でしたが、実際に入れたのは330台で、生産されたエンジンはわずか10台でした。この地下壕の掘削にあたっては、多くの朝鮮人労働者が従事していたという記録が残っています。

地下壕が掘られた経緯や、そこに携わった方々については歴史として残していくことが必要ではないかと思っています。
中田さんはどのような想いで浅川地下壕の活動を始めたのですか。

都立高校の教員をしていたときにクラブの顧問として実測や掘削に携わった人にインタビューをしたことがきっかけです。そこから浅川地下壕をはじめ全国の戦争の記録や戦跡に向き合うようになりました。従事した朝鮮の方を含め、関係者から聞きとった話は証言としてまとめてあります。当時携わった方の想いや生活を深く知る中で考えさせられるものがあり、これまでの活動の原動力となっています。「浅川地下壕の保存をすすめる会」では15年くらい前から見学会のガイドをやっています。私でその3代目になります。

ガイドを行っているとのことですが、見学会にはどのくらいの方が参加されているのでしょうか。

昨年度は50名以上の方が参加されました。今年度は「戦後80年」ということもあり、全国から沢山の申し込みが来ています。子どもから高齢者まで幅広く問合せをいただいています。学生さんや学校の先生たちの申込みもあり、教育の場でも関心が高まっていると感じます。

子どもや高齢者ですと安全面への配慮も重要ですね。保存や継承について今後の展望について教えてください。

はい。見学では、落石や足元の安全対策が欠かせません。ライトや手すりなど整備の必要性を感じています。市民の方をはじめ、議員や市長を含む市の関係者にもぜひ見学に来ていただき、その価値を体感してほしいです。地域の戦跡を後世に残していくためには、例えば、横須賀市の貝山地下壕のように、行政が主導して整備や管理を行うっていく必要があると考えます。そのためには地域から声を上げていくことが大切です。



地域の方に向けて地下壕の歴史を知ってもらう出張学習会も、無料で開いていますので、ぜひ呼んでください。

私たちは「平和」ということを一つの大きなテーマとして活動が続けてきました。しかし、今の日本社会や世界の情勢を見ると、平和という尊いものが危うくなっていると感じています。

沖縄をはじめとする国内の状況や世界情勢を見ると、戦争の危機が身近に迫っているのではないかと感じています。有事への備えが着実に進められ現実味を帯びてきています。万が一の事態が起これば、国民の間に戦争への賛同意識が広がっていくてしまふのでは…そんな危機感があります。だからこそ、今、平和の継承が必要なのです。

琉球弧の自衛隊配備など南西諸島の動きも進んでいますよね。私たちが考えている以上に、軍事力による安全保障の実行に移されているのではと危機感を抱いています。

はい。そういった事実を目を向けると、若い世代への平和の継承のために、私たち大人には地域に残された戦争遺跡の歴史を語り継いでいく責任があると改めて感じます。何も残されていないれば平和に対する実感も湧きません。戦争遺跡は、かつてこの地で実際に起こった出来事の証であり、二度と同じ過ちを繰り返さないための貴重な教訓を伝えてくれるかけがえのないものです。戦争遺跡という遠い過去のように思われるかもしれませんが、戦跡と現在、未来はすべてつながっているのです。

インフォメーション

《浅川地下壕見学会》
10月26日(日)
13時半〜16時※雨天決行

- ◆集合：13:30 高尾駅南口改札前（京王線側）
- ◆費用：300円（保険代含む）
- ◆対象年齢：小学生〜70歳まで（安全確保のため）
※小学生は保護者の方とご参加ください
- ◆定員：30名
- ◆服装等：汚れても良い服装と靴（長靴等）、軍手、懐中電灯、飲み物

【申込み・問い合わせ】八王子・生活者ネットワーク



「学び・調べ・考えよう
フィールドワーク浅川地下壕」
浅川地下壕の保存をすすめる会 編

中田さんのお話を伺い、戦争の歴史から学ぶことの意義と、戦争の記憶を次世代へつないでいくことの大切さを改めて強く感じました。「戦跡と現在・未来はつながっている」という言葉のとおり、沖縄の悲惨な戦争の記憶は、今なお続く米軍基地の過重な負担や自衛隊の配備といった現在の問題に通じています。

八王子・生活者ネットワークの会員有志でつくる「沖縄とつながる八王子の会」では、沖縄の基地問題を考えることから出発して、日本の平和・民主主義を問い直す活動を行っています。

今も世界では戦争によって多くの命が奪われ続けています。戦後80年の節目にあたり、皆さんとともに戦争の歴史から、平和の尊さを考えます。生活者ネットワークは、これからも平和や人権を軸として地域から声を上げていきます。

◆2025 年第 2 回八王子市議会定例会議会報告 [一般質問]◆



金子アキコ

都市環境委員 議会運営委員
都市計画審議会委員



質疑動画は
こちらから

質疑動画は
こちらから



玉正さやか

厚生委員 まちづくり公社諮問委員
表彰審査委員会委員



高齢者の移動支援の充実を

団塊世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を迎えた今、高齢者を取り巻く喫緊の課題として「移動手段の確保」が挙げられます。本市では既に買い物や通院、地域活動への参加など、移動に困難を抱えている方が多く存在しています。公共交通機関においては人材不足等によりバスの減便やルート変更が行われている中、地域の助け合いの仕組みとして機能している住民主体の移動支援を充実させ、持続可能なものとしていくことが不可欠です。そのために、住民に限らず地元の企業や団体などの多様な主体がそれぞれの立場や強みを生かし、地域全体で支え合う仕組みを構築する重要性を訴えました。

地域に多様な若者世代の居場所を

不登校児童生徒の増加や孤独・孤立、ヤングケアラーなど子どもや若者を取り巻く課題は多様化しています。学童や放課後子ども教室など、小学生までの子どもの居場所は法制度のもと整えられてきてはいるものの、中高生以上は制度的な支援が薄くなることもあり、居場所が限られているのが現状です。はちびバや生涯学習センターにおける居場所としての現在の取組状況を伺うとともに、地域の一番身近な公共施設である市民センターが若者世代の求めている居場所の機能を果たす必要性を訴えました。地域資源や公共施設を最大限活用した、若者の居場所づくりの促進を強く要望しました。

市民と子ども主体で作る、 子どもの権利条例を八王子に

今年4月から始まった第2期八王子市子ども・若者育成支援計画において、子ども条例制定の検討が明記されたことを受け質問を行いました。今後条例を検討するにあたっては、市民の関心を高めること、当事者である子どもへの参画が非常に重要です。子どもによる条例検討委員会設置や子どもたちの言葉で条例前文を作成する等の提案を行いました。

マイナンバーカード「電子証明書」 の更新と国民健康保険について

マイナンバーカードの作成から5年が経過すると「電子証明書」の更新が必要ですが、更新忘れによりマイナ保険証が使えず、診療時に保険適用が受けられない事例が発生しています。更新が滞っている方には期日前に保険証に代わる「資格確認書」の送付が行われ、制度上無保険状態になることはないとの答弁でしたが、更新忘れにより国民健康保険の利用に不具合が生じる人は今後も出てくると考えられます。行政手続きの簡便化と被保険者の安心に繋がるとして、渋谷区・世田谷区が行っている資格確認書の一律交付の検討を求めました。

※電子証明書・マイナンバーカードのICチップに搭載され、オンライン上の手続きで本人確認を行う際の証明となるもの



金子アキコの FB・インスタをチェック！



玉正さやかの FB・インスタをチェック！



都議会議員選挙・参議院議員選挙を終えて



東京・生活者ネットワークは、岩永やす代（北多摩2区 現職）、高岡じゅん子（世田谷区 新人）、小松久子（杉並区 元都議）、3名の候補者を擁立し、市区部すべての生活者ネットワーク総力で選挙に取り組みました。

その結果、岩永やす代は選挙区トップで2期目の当選、高岡じゅん子は次点、小松久子は次々点で惜敗。生活者ネットワークの議席を増やすことは叶いませんでしたが、岩永都議と今後も引き続き連携していきます。

また、八王子では立憲民主党細貝悠さんを推薦し、4位で初当選しました。今後都政フォーラム等を開催し、八王子市が抱える東京都の案件を都政に届けるため、細貝都議と市民をつなぐ機会を作っていきます。

差別を煽る政治にNOを



参議院選挙では「外国人政策」が争点として扱われ、複数の候補者・政党から外国人に対する差別を煽るような発言があり、排斥を掲げる政策が支持を集めました。

今ある社会不安を他者の排斥に結びつけるような政治家の狙いにはつながりません。属性によらず人には平等に人権があり、差別を行う自由はないのです。

しかし、政府の統計や実態調査に基づくファクトチェックにより、そうした政策の根拠となる事実はないということが明らかになってきています。例えば「外国人が医療を過剰に利用している」などと流布されていますが、7月15日の厚生労働大臣記者会見で、国民健康保険に加入する外国人は全被保険者の4.0%で総医療費に占める割合は1.39%、また、高額療養費の該当件数に占める割合は1.04%、支給額としては1.21%と、外国人が医療費や高額療養費制度を過度に利用しているという事実はないと示されました。

日々の生活の中で、外国にルーツを持つ人と交流し対話する機会を増やしていくことや、人権を学ぶ機会を持つことが重要です。また、根拠のない情報に流されない政治リテラシーを身につける必要もあります。

一方、一度火が点き拡散した情報の真偽を覆すには膨大な手間と時間が必要で、その間にも当事者は差別発言に晒され続け、傷つき不安を抱えて過ごしています。政治家が選挙活動という公の場で差別発言を行ったことは非常に重大な問題です。差別が人を殺し、戦争を引き起こしてきた歴史があります。私たち生活者ネットワークはあらゆる差別に反対します。

多様性が存在するこの社会の中で、共に生きる仕組みを作ることが政治の役割です。私たち八王子・生活者ネットワークは、民族・ジェンダー・障がいの有無・出自などすべての差別や偏見に起因するヘイトスピーチ・ヘイトクライムの根絶に取り組む条例制定を求める等の基本政策を掲げています。共に生きるための政策実現に向け、思いを新たにしました。

☆八王子・生活者ネットワークには平和人権部会があり、政策提案につながるための学びの機会を今後定期的に企画していきます。一緒に活動しませんか？お問い合わせください。

